

# かけはし

発行者 中野敏治

tnknkai@gmail.com

## 原点(不易)にこだわる

年末年始の休暇は、何かと慌しく過ぎていきます。それでも学校は数日間、完全に休むことができます。

「忙しさを楽しもう」と教えてくれたのは山田暁生先生でした。慌しさも楽しみながら、この休みの間に教育(教えるということ)についてもう一度、考えてみようと思っています。

さまざまな教育改革が行われている中で、教育における不易の部分を見失ってはいけないという思いが、ずっと心の中にありました。

学校教育関係者以外の方も、よく読まれている大村はま先生の本をまた読み始めています。

「**できたの、できたの、喜んで**」  
んだり悲しんだりしている世界ではなく、みんなが、それぞれの成長を願い、一生懸命生きている教室が、ほんとうに、いきいき

している教室だと思いたい」と大村はま先生は「日本の教師に伝えたいこと」という本の中で書かれています。気がつけば、教師も親も目の前の結果を早く求めようとしている

気がします。きっと世の中全体が、結果を急いで求め過ぎているのかもしれない。

成績に関係がなければ、作品や宿題を提出しない(結果が見えなければ努力をしない)という風潮が学校や社会の中にあるのではないのでしょうか。

今、世の中は、漢方薬的なゆつくりした効き目でなく、抗生物質的な即効性を求めているのでしょうか。盆栽などは、いきなり枝を曲げると枝が折れてしまうものです。時間をかけ、針金等で曲げていくと枝はきれいに曲がっていきます。(教師や大人はこの針金的な役割になることが必要なのではないか)

じっくり、ゆつくりは、教育にも社会にも、今、大切なもののだと思います。

昨年四月から学校で仕事ができるようになり、職場の先生方を対象に「職員室だより」の発行を始めました。若い教員が多

い職場ですので、教育情報や教育への思いを載せています。教育の不易の部分を大切にしているという思いからの発行です。森信三先生、東井義雄先生、大村はま先生の言葉も載せています。人を育てるといふ不易の部分を変えたいのです。

教職十年を過ぎた先生に「毎日忙しくて大変だね」と声をかけました。すると「いや、毎日が楽しいですよ。真剣に子どもたちに向かい合っていると、子どもたちがしっかりと応えてくれるんですから」と言葉が返ってきました。

部活や学級事務などで毎日朝早くから夜遅くまで仕事をしている先生です。休日も部活等で出勤をしています。多くの先生方が同じような状況です。それでも「楽しい」という言葉が出てくるのです。教職という仕事の素晴らしさを感じています。

